

法蔵 338号 10月号

・順信寺の予定

* 10月12日(月)午後0時より 「定例会法話」 お話していただく布教使さんは、和寒町顯正寺の高岡純孝師です。一緒に^{ぶつぽうちようもん}仏法聴聞させていただきます！！ お待ちいたしております。

* 10月28日(水)午後1時より 「親鸞聖人ご命日のお参り」

* 11月12日(木)午後0時より 「定例会法話」お話しいただく布教使さんは、士別市温根別町 教証寺の寺沢三郎師です。月に一度二時間仏さまのお話に耳を傾けてみませんか！！

* 11月28日(土)午前11時より ^{ごしょうきほうよう}「御正忌法要」

親鸞聖人の^{しょうつきめいにち}祥月命日のおまいりです。お参り、法話、お齋と^{とき}行います。お齋の用意のお手伝いをしただけの方は午前8時にお寺の台所にお越しいただきますようお願い申し上げます。

今年最後の法要です。是非お参りください。

自分よりも「本当に尊い世界」があることを教えてくださるのが、
ご本尊のはたらきである。

ご本尊を見失うなら、人間はどこまでも^{ごうまん}傲慢になる。

(帯広市 西真寺掲示板より)

○ コロナ禍の中、お蔭様で8月のお盆、9月の報恩講そして秋彼岸と勤めさせて頂きました。有り難うございました。お盆の後も暖かい日が続き夏を味わえた今年でしたが、いよいよこれから日が短くなっていき、秋も深まってまいります。夕暮れには車の運転に十分気を付けて、一日一日を地に足をつけて生きていきたいと思えます

「今日ある。その今日を生きていく。」 (畠山明光)

「皆さんは命を生きています。その命を皆さんはどう考えていますか。これは自分の命だと思っていますね。そうでしょうか。このなかで自分の命を自分で作った人はいますか。誰もいません。この命はいただいた命なのです。私たちは誰もが例外なく、与えられた命を生きています。しかし、自分たちは与えられ

ているとは思っていない。しかし、考えてみれば分かるように、私たちの命は、君の命も僕の命も、自分で作ったものではなく、いただいた命なんです。そのことを教えてくれるのが南無阿弥陀仏という名前の仏さまなのです。あの阿弥陀さまは私の命をあのよう形（お寺の阿弥陀さま）であらわしているのです。だから仏さまに向かって手を合わしておるのは、外におるその仏さまに手を合わす形を持って、実は自分を生かしておるその命に手を合わせているのです。命に手を合わせていますと言っても、どこにもそんなもの見えないものですから、ひとまず自分の内にはたらいおる命を仏さまという形で外に出して、そしてそれを拝むことによって実は自分の命を拝んでいるのです。それは与えられた自分の命とっていますが、自分の命ではなく与えられた命です。本当は私のところにすでにきている命だから、その命は単に阿弥陀仏といわないで南無阿弥陀仏と呼ぶのは私のところにはたらいおる命として南無阿弥陀仏とあらわしているんです。」

（尾畑文正）

～上の文章は尾畑文正師が小学生に向けてお話したものです。私に生きている尊い不可思議な命に目覚めたいものです。

「私たちにとっていちばん悲惨なことは、生活を共にしていながら、その人と真実に出会うことができないことです。そのような私たちのためにこそ、人と人との真実に出遇うことのできる世界として、如来は浄土を莊嚴されるのです。」（竹中智秀）

～竹中先生は「亡くなってから出遇うのが本当の出遇いだ」とも仰っていました。人は出遇い直すということがあると思います。相手が亡くなってこちら側に力みが無くなって、今までと違う形でその人が現れてくるということがあると思うのです。そのことが今共に生きている人とも違う世界が開ける道になるのではないのでしょうか。ですからそう決めつけてしまわないで欲しいと願うのです。

「不安は 真実なるものを 求めている

いのちの うめき」

（「生きる」より）

・ 忠峰コーナー

「秋味が 店に並んで 人を呼ぶ」

「何となく 心も沈む 秋時雨」